

# 神奈川で企業向け用地開発進む

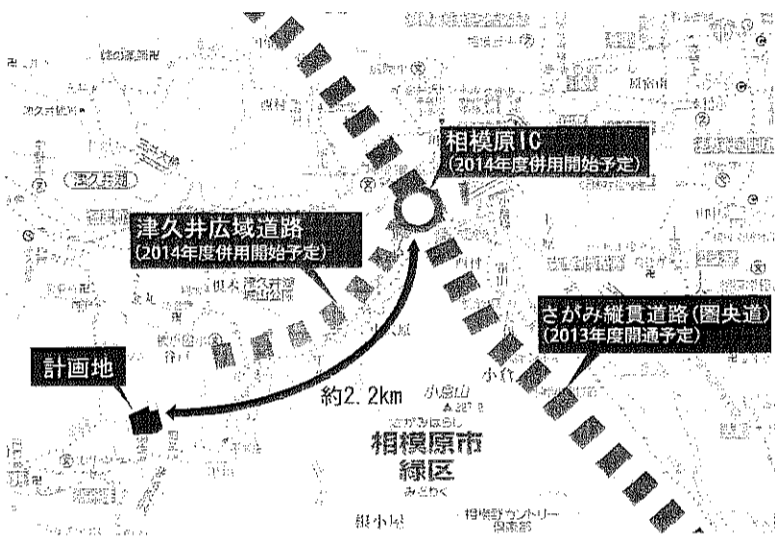
## 相模原市に新産業拠点

### エム・ケーが立地企業募集開始

エム・ケー（東京都日野市）は相模原市緑区で整備する予定の企業向け事業用地「金原西側新産業拠点」について、立地企業の募集を開始した。2014年初めに造成を始め、同年10月に企業が集まり始める見通し。国土交通省などに伴う交通利便性を売りに、活用を促す方針だ。

### 2014年造成開始

用地は、14年度内供用（岩倉道交点エム・ケー事務所）と見られる。同ICにより、都心から約2.2km、約50分以内で位置する。緑区は東名高速道路、中央自動車道、関越自動車道、同ICの間には、14年度内に津久井広域道路も開通する予定で、「よりアクセスしやすく、利便性向上が期待される相模原市緑区」



## 海老名市でも2地区

### 高速道路網が強み

海老名市では、海老名運動公園周辺地区と中野の2地区で企業向け用地開発の準備が進んでいる。いずれも国道海老名バイパス（エム・ケー）付近にあり、利便性は良好。またまとまった土地面積の売り物件が出ている海老名市において、注目を集めている。

海老名運動公園周辺地区の1区画については、総面積約8万9千平方メートル、エム・ケー（東京都日野市）に企業向け用地の供給が予定されている。そのほか、約3万4千7百平方メートルの広い土地は、

海老名市では希少と同一水準の小倉一幸次長は強調。工業用地として活用を促す方針だ。計画地は海老名ICから約500mの位置にあり、アクセスが良好と見られる。同社は2014年2月に事業募集を開始する計画。その後、15年8月の事業認可取得、同年12月以降の建築工事着手を見込んでいく。

一方、中野地区では「流通業務効率化及び効率化の促進に関する法律」に基づき土地開発が計画されている。対象となるのは、面積約4万5千平方メートルの開発予定地。海老名運動公園周辺地区の約2.2kmの地点に位置する。同法に基づき、新設が認められるのは流通業界をはじめ、多くの企業に活用を促している。新しいこととしている。

## 民間ノウハウ活用を

### 企業誘致の研修会

#### 渡辺エム・ケー常務が講演

6月13日、日本立地センター（東京都千代田区）による第25回産業立地実務研修会が、同センターで開かれた。同センターの常務の渡辺一幸氏が同会内で講演した。テーマは「一市街地実務研修会のカリキュラムとして、エム・ケーが活用した事例」を扱った。

渡辺氏は「国内の都市計画区域の中にある市街地化区域の面積は限られる。産業構造の変化に弾力的に対応するために、高い評価を受けている。3月に開業したイオンモールつくばは、オープン初日の来場者数が5万人規模に達するなど、地域振興に貢献している」と述べた。企業誘致については、「行政としてやるべき事と民間に任せる事を整理し、民間のノウハウと資金力を最大限に活用していく事が近道」と述べた。



「構造変化に対応するための開発する区域」と強調する渡辺常務